

芸能武術概念の定義と課題

-近代武道概念形成時における芸能的性格の排除に着目して-

田邊 元(早稲田大学大学院スポーツ科学研究科博士課程2年)

日本には、全国的に様々な民俗芸能が伝承されている。このような民俗芸能の中には、武術をもとにして成立したといわれる芸能が存在する。武術をもとにして伝承される民俗芸能は、元来、武術流派であったものであり、それが何かしらの理由で武術的側面よりも芸能的側面を強めて伝承されるようになったものと考えられる。武術をもとにして伝承される民俗芸能はこれまでの武道研究ではほとんど扱われることがなく、研究史上の位置づけもはっきりしていない。しかし民俗芸能として伝承される武術は従来の武道研究に対して大きな問題提起となる可能性を秘めている。本発表の目的は武術をもとにして伝承される民俗芸能が提起する問題とは何かを示し、その提起された問題が武道研究史上、どのように位置付くのかを考察することである。

この目的を達成するために、本研究では大正～昭和初期における武道および古武道概念が成立した時期に着目する。それにより、これまでの武道研究がいかに民俗芸能として伝承される武術を研究対象として認識してこなかったのかを考察する。また、民俗芸能に伝承される武術が民俗学や民俗芸能研究においてどのような位置づけにあるのかも考察する。これらの検討を通じ、民俗芸能に伝承される武術の特徴を描き、そのような対象を「芸能武術」という用語で定義し、概念として提示する。そして実事例として、「田山花踊り」という民俗芸能における「棒振り」という芸能武術の分析を試みる。

以上を通じて、芸能武術という概念を用い、武道研究において扱われない周縁部を明らかにすることで、どのような問題を提起するのかを述べたい。